



**平成14年12月期**  
**第3四半期決算概況**

平成14年11月

**株式会社ピーエイ**  
東証マザーズ 証券コード:4766

# 目次



## Part 1 決算概要

売上増と原価・販売管理費の圧縮により赤字幅が縮小

## Part2 今後の経営主題

就職支援で培った経営資源を活かして、IT系を中心とした教育支援をさらに拡大

Page 1

当第3四半期は、売上増と原価・販売管理費の圧縮により赤字幅を圧縮させることができました。

そもそも当社の減収要因は、不況等の外部要因もありますが、根本的な要因は外部環境の変化に合わせて、商品、組織をスピーディに対応できなかったことにあります。これはマネージメント機能の不完全さに起因する事で、マネージメント層の事業展開とのミスマッチや、本社機能を新潟から東京に持ってきたことによる組織の再構築の遅れによるものです。

そのために、人材の入れ替えも含む組織改革を昨年第4四半期より断行し、販売効率を向上させることができました。

また、その結果、ブレークイーブンが見えてきたことで、ITプロフェッショナルの就職支援「JOBMAIL」で入手の仕組みを作り収集してきたITプロフェッショナル人材データベースや、顧客であるSI企業、そして資格・受験情報を提供する教育支援「LICENSE WORLD」の顧客である学校等の顧客データベースなど、当社の経営資源をフル活用して、ローコストな教育支援事業を立ち上げる体制が整いました。

Part1 決算概要  
P/Lサマリー



(単位:百万円)

	02.3Q (7-9月)	前期比	02.1~3Q (1-9月)	前年 同期比	連結 02.3Q (7-9月)	前期比	連結 02.1~3Q (7-9月)	前年 同期比
売上高	267	8.9%	750	38.8%	419	12.9%	1,137	-
売上総利益	156	30.3%	360	50.4%	188	4.0%	459	-
営業利益	56	-	335	-	105	-	367	-
経常利益	55	-	340	-	107	-	375	-
当期純利益	58	-	358	-	88	-	394	-

\* 2002年5月から株式会社ホロンが連結対象となりました。  
そのため、連結決算を本年第2四半期から作成しております。

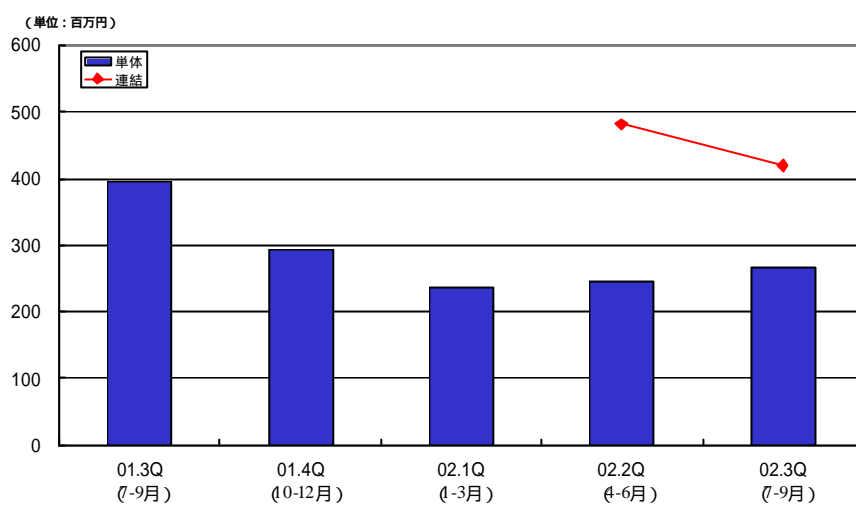
Page 2

当第3四半期(7-9月)は、売上高267百万円、前期比8.9%増、売上総利益156百万円、前期比30.3%増、営業損失56百万円、経常損失55百万円、当期損失58百万円となりました。経常利益で前期に比較して54百万円改善し、2四半期連続で赤字幅を縮小させることができました。

また、本年4月にデジタルコンテンツのプロデュース、開発・販売を行う株式会社ホロンの子会社化により、第2四半期より連結業績を発表することになりました。

その第3四半期(7-9月)連結業績は、売上高419百万円、前期比12.9%減、売上総利益188百万円、前期比4.0%増、営業損失105百万円、経常損失107百万円、当期損失88百万円となりました。

## 売上高推移 (四半期別)



売上高は、267百万円と前期比8.9%増。当期に入り、引き続き増加。

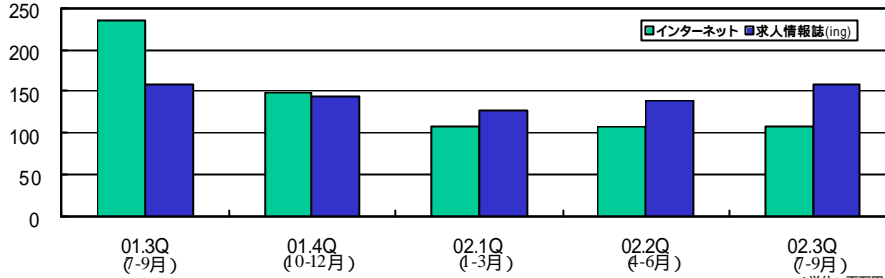
単体の業績は次の通りです。

売上高は、267百万円、前期比8.9%増となりました。2001年第4四半期より売上高は減少しておりましたが、当期に入り、売上高が増加に転じました。

## 事業別売上高推移 (四半期別)



(単位：百万円)



			01.3Q (7-9月)	01.4Q (10-12月)	02.1Q (1-3月)	02.2Q (4-6月)	02.3Q (7-9月)
インターネット	JOBMAIL	求人広告	77	68	58	41	52
		人材紹介	131	62	33	51	40
	LicenseWorld		27	16	16	14	16
	小計		235	147	108	107	109
求人情報誌(ing)			158	143	127	138	158

インターネット事業が109百万円と前期比2.2%増、求人情報誌(ing)事業が158百万円と前期比14.0%増。求人情報誌(ing)事業の増加が売上増に貢献。

事業別に見ますと、インターネット事業が109百万円、前期比2.2%増、求人情報誌(ing)事業が158百万円、前期比14.0%増となり、求人情報誌(ing)事業の増加が売上増に貢献いたしました。

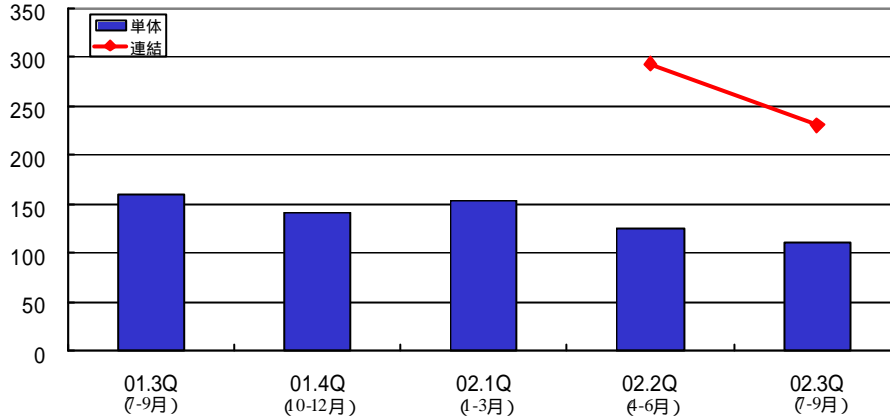
インターネット事業は、当期に入り、ITプロフェッショナルの採用ニーズが大量採用から個別ニーズに合わせた人材採用へと変わってきたことを受けて、個別ニーズに合わせたITプロフェッショナルを供給できる求人広告と人材紹介を中心とした体制へ転換いたしました。そのため、前年同期比は減少したものの、体制の確立により、上向くことができました。

求人情報誌(ing)事業は、雇用環境の厳しい中、雑誌のリニューアル、Web商品の開発など、改善改良を加えてきた結果、当期に入り、2四半期連続増収となりました。

## 原価推移 (四半期別)



(単位：百万円)



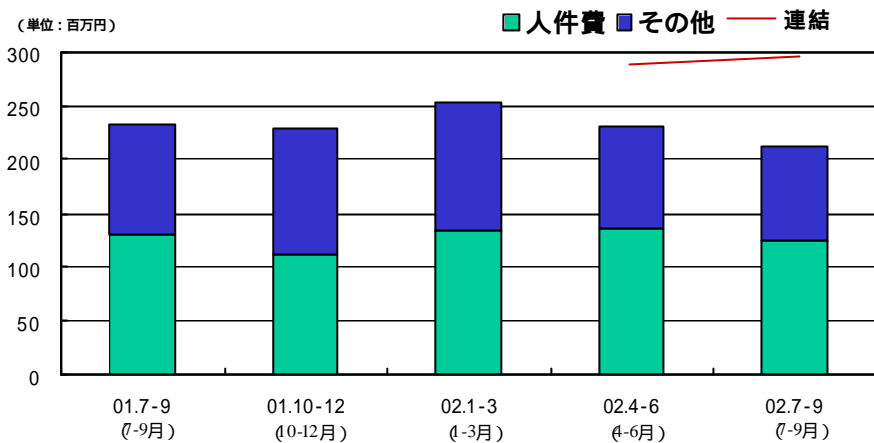
原価は、111百万円となり、原価率が41.1%と前期比10ポイント改善。  
インターネット事業におけるWeb提携先の見直しと人材紹介コンサルタントの人件費圧縮が要因。

原価は、111百万円となり、原価率が41.1%と前期比10ポイント改善いたしました。

インターネット事業においては、より効率的に履歴書獲得数の増加を図るために、Web提携先の拡大、Webの露出を高める一方、Web提携先の見直し、JOBMAILマガジンの休刊、IT専門誌への求人情報提供の縮小を行った結果、履歴書獲得数を大幅に増加させることができましたと共に、原価を圧縮することができました。また、原価として計上されている人材紹介コンサルタントの人件費圧縮も原価圧縮に貢献しております。

また、求人情報誌(ing)事業においても、紙媒体の原価圧縮を実施いたしました。

## 販売管理費推移 (四半期別)



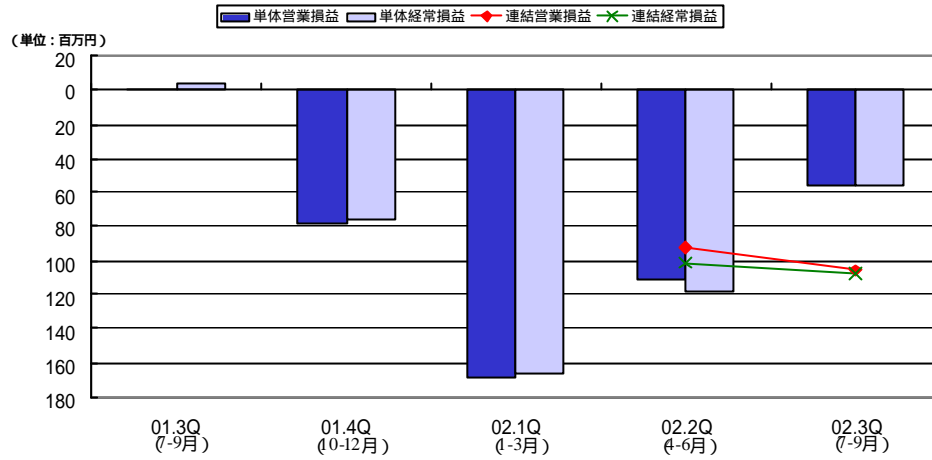
販売管理費は、213百万円となり、販売管理費比率が80.0%と前期比13.9ポイント改善。  
人件費の圧縮とその他経費の見直しによる圧縮が要因。

販売管理費は、213百万円となり、販売管理費比率が80.0%と前期比13.9ポイント改善いたしました。

人員削減による人件費の圧縮と、その他経費の見直しにより、販売管理費を圧縮することができました。

Part1 決算概要

営業損益、経常損益推移 (四半期推移)



営業損益が 56百万円と前期より54百万円、経常損益が 55百万円と前期より62百万円改善。売上高増と原価、販売管理費の圧縮が功を奏して、営業損益、経常損益共に損失幅が縮小。

その結果、営業損益は、56百万円と前期より54百万円、経常利益が55百万円と前期より62百万円縮小いたしました。

売上増と、原価、販売管理費の圧縮が功を奏し、当期に入り、2四半期連続で赤字幅を縮小することができました。





販売体制の再構築により、販売効率が改善されたことで、売上高が上向き始めた

コスト削減を先行して実施



現事業の抜本的改善は終了

同時に、新しい事業を準備できる体制が整った

以上の結果、当期においては、販売体制の再構築により、販売効率が改善されたことで、売上高は上向き始めました。また、コスト削減は先行して実施し、原価、販売管理費を圧縮することができました。

これにより、現事業の抜本的な改善は終了し、第4四半期以降に黒字化する経営体制となりました。同時に、新しい事業を準備できる体制が整いました。



\* 2002年5月から株式会社ホロンが連結対象となりました。  
そのため、連結決算を本年第2四半期から作成しております。

**売上高は、419百万円と前期比12.9%減**

連結子会社ホロンの年末商戦に特化した商品戦略が響いたものの、ピーエイ本体は、堅調に推移

**原価は、230百万円となり、原価率が55.0%と6ポイント改善**

ピーエイ本体の原価圧縮が奏効

**販売管理費は、294百万円となり、販売管理費比率が70.2%と12ポイントアップ**

販売管理費は前期比ほぼ横ばいだが、連結売上高の減少が響き、販売管理比率が上昇のれん代償却は、7百万円。

**経常損失は、107百万円と前期に比較し、6百万円損失が増加**

連結子会社ホロンの影響があったが、ピーエイ本体は赤字幅が縮小

連結業績は、次の通りです。

売上高は、419百万円と前期比12.9%減少いたしました。連結子会社ホロンが、年末商戦に特化した商品戦略であるため、当四半期は強力な商品発売を行わない計画だったという季節要因が響きました。しかし、ピーエイ本体は堅調に推移いたしました。

原価は、230百万円となり、原価率が55.0%と6ポイント改善しました。ピーエイ本体による原価圧縮が奏効しました。

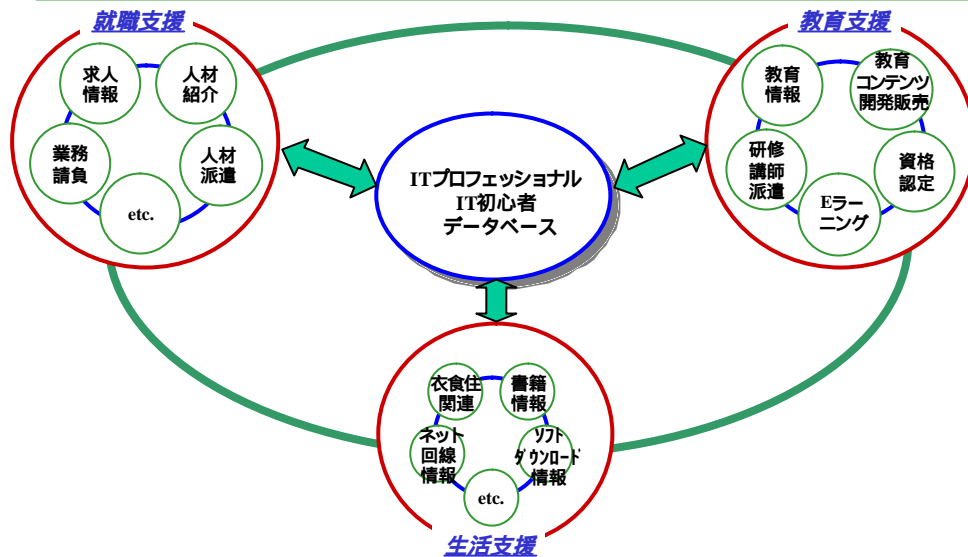
販売管理費は、294百万円となり、販売管理費比率が70.2%と12ポイントアップしました。連結売上高の減少が響き、販売管理比率が上昇しました。

経常損失は、107百万円と前期に比較し、6百万円損失が増加しました。ホロンの影響がありました。ピーエイ本体は赤字幅が縮小いたしました。

## 当社のビジョン



### IT関連総合サービスを志向し、ライフデザインを提案する



当社のビジョンは次の通りです。

1940年代半ばのコンピュータの出現と共に始まったIT革命は、ITに関わる技術革新のみならず、経済、市場、産業構造、労働構造を根底から変えてしまうほどのインパクトを世界中に与えております。

初期においては、ITの象徴となるコンピュータの出現により、昔からあった諸々のプロセスをルーチン化し、時間短縮とコスト削減が図られました。続いて、1990年代には世界中の端末を結ぶインターネットが登場し、このインフラを活用したビジネスが登場し始めました。

これにより、世界の経済、市場の距離感は事実上なくなり、もはや世界には1つの経済、1つの市場しかなくなったと言われております。この影響を受けて、企業はグローバルな競争力が必要となり、一般大衆は“どのように買うか”から“何を買うか”という消費行動に変化し始めております。そのため、企業は競合他社との差別化とコスト削減のために積極的にIT投資を行い、一般大衆は自己のライフスタイルの実現のためにITを活用し始めました。

まさに、ITは経済構造改革の実現や産業活動の効率化を促進し、国民生活ではライフスタイルの実現や利便性の向上を図るキーとなっています。

我が国も、IT化は着実に進んできております。政府は2005年までに世界最先端のIT国家になることを目的とした「e-Japan戦略」を掲げ、我が国のIT化を支援すると共に、企業も積極的にIT投資を行い、インターネット人口も昨年から本格的に始まったブロードバンドにより、急速に増加しております。

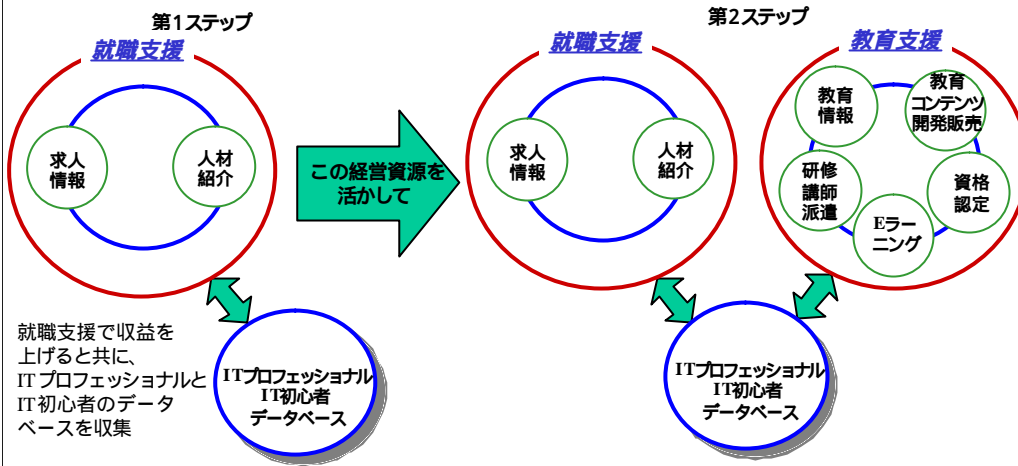
しかしながら、IT武装構築を行うITプロフェッショナルは、以前から問題視されていたものの、依然不足状況にあります。平成12年度国勢調査によると、ITプロフェッショナルは78.8万人しかおらず、アメリカの1000万人に比較し、非常に少なくなっております。さらに国民のITリテラシーも非常に低いのが現状です。

そのため、当社は、世界的に競争力を持つITプロフェッショナルを育成すると共に、国民のITリテラシーを向上させることを目的に、ITプロフェッショナルとIT初心者をインターネットとユーザーのコミュニティによって囲い込むことでデータベースを収集し、就職支援、教育支援、生活支援などの「IT関連総合サービス」を行うことによって、ITを通じて人々の「ライフデザイン」を提案し、我が国の情報化社会の発展に貢献していきたいと考えております。

## 第2ステップへの取り組み“教育支援”



就職支援で培った経営資源を活かして、教育支援という新しいマーケットを創造



就職支援で収益を上げると共に、ITプロフェッショナルとIT初心者のデータベースを収集

経営資源を活かし、ローコストで新規事業を展開

このようなビジョンの下、第1ステップでは、就職支援として求人情報提供、人材紹介を行い、同時にITプロフェッショナルとIT初心者のデータベースを収集してきました。

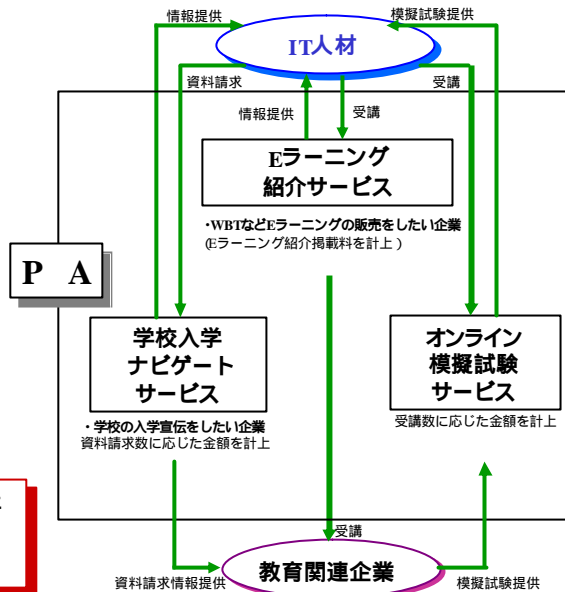
今後は、この経営資源を活かして、第2ステップとして教育支援を行っていきたいと考えております。具体的には、教育情報の提供、教育コンテンツ開発・販売、研修講師派遣、資格認定、Eラーニングなどを行っていきたいと考えております。



IT人材を中心とした資格取得希望者の  
資格 受験関連情報サイト「LicenseWorld」



LicenseWorldサイトを中心としたインターネット上の  
教育市場（マーケットプレイス）にて、  
学校入学ナビゲートサービス、  
オンライン模擬試験、Eラーニング紹介を行う



第1に、教育情報を事業化いたしました。

本事業は、スキルアップサイト「LicenseWorld」を開設すると共に、新聞社ニュースサイトポータルサイト、プロバイダー系サイト、iモード、EZWebなどに教育情報コーナーを開設、または情報提供することで、ネット上に教育マーケットプレイスを構築し、教育情報の提供を行っております。

ビジネスモデルとしては、専門学校等の講座を行う学校ナビゲートサービス、Eラーニングの紹介、模擬試験の提供を行っております。学校入学ナビゲートサービスは、ネット上で資料請求が行えるようになっており、その資料請求数に応じて徴収する形式と広告掲載料を徴収する2種類があります。Eラーニングは紹介広告料を徴収すると共に、利用手数料を徴収しております。オンライン模擬試験はiモードにて利用料を徴収する形式になっております。

今後は、本事業の改善として、現在でもモード公式サイトで教育部門でダントツの利用率を誇る「資格王 受験王」のリニューアルと、EZWeb公式サイトで「LicenseWorld」のリニューアルによるオンライン模擬試験の有料化を行いたいと考えております。さらに、他の携帯サイトへの新設を検討しております。これにより、オンライン模擬試験サービスの売上高向上を図っていきます。

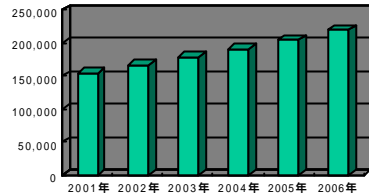
また、Web提携先の拡大を行って学校入学ナビゲートサービスの資料請求数を向上させ、売上高拡大を図っていきます。

## 教育コンテンツ開発販売、研修講師派遣、資格認定はLinux、UMLに特化

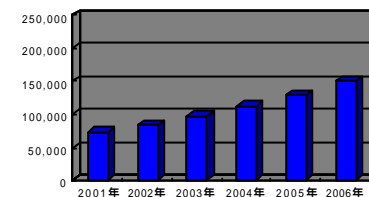


教育コンテンツ開発販売、講師派遣等のコースウェア販売、資格認定を事業化

単位：百万円 国内IT教育の市場規模予想



単位：百万円 国内Eラーニングの市場規模予想



(2002年10月IDCジャパン発表資料より)



我が国で今後大きな普及が見込まれる技術  
当社にとって影響力を保持できる技術  
に特化



Linux教育事業

UML教育事業

第2に、教育コンテンツ開発販売、研修講師派遣、資格認定を事業化していきます。

IDCJapan発表資料によると、IT教育サービス市場は2001年に1549億円となり、2006年には2203億円まで到達すると発表されました。また、Eラーニング市場は2001年に727億円となり、2006年には1491億円に達すると発表され、IT教育はさらに拡大していくと予想されております。

当社は、この大きな市場の中でも、特に我が国で今後大きな普及が見込まれる技術や当社にとって影響力を保持できる技術に特化して事業化していきたいと思っております。

それが、Linux教育とUML教育です。

Part2 今後の経営主題

## Linux 教育の具体的な進め方



Linux教育事業を行うレーザーファイブドットネット株式会社と合併で、  
リナックス教育研究所 (LTI、当社持株比率66.7%) を設立

サービス	実現手法
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">                     教育コンテンツ 開発 販売                 </div>	<div style="display: flex; align-items: center; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">                       リナックス教育研究所 著作                 </div> <div style="font-size: 2em; color: green;">➔</div> <div style="text-align: center;">                       ビーエイ発行                 </div> <div style="text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px; font-weight: bold; font-size: 1.2em;">P A</div>                      ビーエイ発行                 </div> </div> <div style="margin-left: 20px;">                     日本初でLPIが認定するLPIC Level1の対策教材を11月に発売 来期Level2も発売予定                 </div>
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">                     講座運営 講師派遣 etc                 </div>	<div style="text-align: center; margin: 10px auto;">                       リナックス教育研究所                 </div> <div style="margin-left: 100px;">                     LPI認定教材に則った講師の派遣を行う                 </div>

**グループ会社として事業展開！！**

リナックス教育の具体的な進め方は、次の通りです。

リナックスは、自由に再配布できる独立したUnix系のOSです。非常に安定性に優れており、サーバには最適なOSと言われております。

リナックスは、このような評価を受けているため、我が国でも大きく普及し始めております。インプレス発行 リナックス白書2003によると、日本の企業がリナックスサーバを1台以上導入していると回答した導入率は昨年の35.5%から大幅に増え、64.3%になったと発表されました。

当社は、このリナックスに関する教育事業を行うために、リナックス教育事業を行うレーザーファイブドットネット株式会社と合併で、リナックスに関わる教育の企画運営、講師の派遣等を行う子会社、株式会社リナックス教育研究所を設立いたしました。

これを機に、教育コンテンツ開発・販売として、リナックス教育研究所が著作、当社が発行元となり、リナックス技術者の世界的認定機関であるリナックス・プロフェッショナル協会 (LPI) が日本初で認定した本協会の実施する資格試験LPIC Level1の対策教材を11月に発売いたしました。

これにより、当社は、LPI認定教科書として書店はもとより、専門学校・スクール等で販売すると共に、リナックス教育研究所は、講座運営・講師派遣としてLPI認定教材に沿った講師の派遣を行っていきます。また、教育コンテンツ作成は有力なEラーニングコンテンツともなっていくます。

このようにグループ会社としてリナックス教育事業を展開していきます。

## UML教育の具体的な進め方



UMLなどの標準を策定する米国のNPO、OMGの日本法人OMG ジャパンと、UML教育研究所 (UTI、当社持株比率50%) を設立するなど、包括的に提携

サービス	実現手法
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; text-align: center;">                     教育コンテンツ 開発 販売                 </div>	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;">                         P A                     </div> <div style="font-size: 2em; color: green; margin-right: 10px;">➔</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                         P A                     </div> </div> <p>世界初でOMGが認定するUML教材を本年中に2冊発売予定 来期さらに4～5冊発売予定</p>
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; text-align: center;">                     講座運営 講師派遣 etc                 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;">                     UTI                 </div> <p>UML教育研究所</p> <p>認定校制度 認定カリキュラム制度 認定トレーナー制度</p>
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; text-align: center;">                     資格認定                 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;">                     UTI                 </div> <p>UML教育研究所</p> <p>OMGジャパンと合併で設立。 UML技術者を認定する世界唯一の機関として資格試験を作成すると共に、日本、世界を視野にいれた資格試験制度を確立</p>

グループ会社として事業展開！！

UML教育の具体的な進め方は、次の通りです。

UMLは、NPOのOMG (オブジェクト・マネジメント・グループ) によって策定された分析・モデリングの際に利用する言語です。さまざまなモデルを表記するための言語が乱立する中、OMGが異なるモデリングでも知識を共有できるようにしたものです。

すでに、設計仕様書においてのUML普及率は、欧州で100%、アメリカで90%となっております。しかし、日本では普及率がまだ10%未満であり、今後の普及が大いに期待できます。

また、資格試験市場においても、アットマークアイティ発表「IT読者調査」によると、民間資格の中で、今後取得したい資格は、XMLマスターに次ぎ、オラクルマスターと同位でUML技術者認定であると発表されました。ITプロフェッショナルもこの技術知識の取得に前向きです。

当社は、このUMLに関する教育事業を行なうために、UML等を策定するOMGの日本法人OMGジャパンと包括提携しました。

その第一弾として、ピーエイ、OMGジャパンが共同著作、ピーエイが発行元となり、世界初でOMGが認定するUML教育教材を、本年中に開発、来期に本格展開していきたいと考えております。

第二段として、OMGジャパンと合併で、今月UML技術者の資格認定事業を行うUML教育研究所を設立いたします。この子会社は、UML仕様の管理に責任を持つOMGが公認するUML技術者を認定する世界唯一の機関として、来年7月から9月にかけて、UML資格試験を世界同時に独占的に実施する計画となっております。

同時に、UML教育研究所にて、UML教育のレベルアップのための認定校、認定カリキュラム、認定トレーナー、認定教科書制度を確立していきます。

このようにOMGと包括的に提携し、グループ会社として事業展開していきます。



## Eラーニングの具体的な進め方



### 連結子会社である株式会社ホロンの経営資源を活用したEラーニングの実現

ホロンの事業内容  
デジタルコンテンツのプロデュース力を強みとするソフト開発販売会社

タイピングソフト



Linux系ソフト



その他多数



ホロンのプロデュース能力と当社のデータベースを活かし、Eラーニング開発 販売の実現

これらの経営資源を活かして



リナックス教育研究所とのシナジー効果を活かしたLinux デジタルコンテンツの開発

- Linux講師派遣事業と組み合わせたパッケージの提供と教育事業
- Linux教育コンテンツの開発

PAグループの総合力を発揮

また、子会社のホロンの経営資源を活用してEラーニングを事業化していきたいと考えております。

ホロンは、デジタルコンテンツのプロデュース能力を強みとしたソフト開発販売会社であります。各種タイピングソフトや、自社開発のLinux系ソフト、その他多数のデジタルコンテンツをパートナー会社を通じて開発、パソコン量販店などで販売しております。

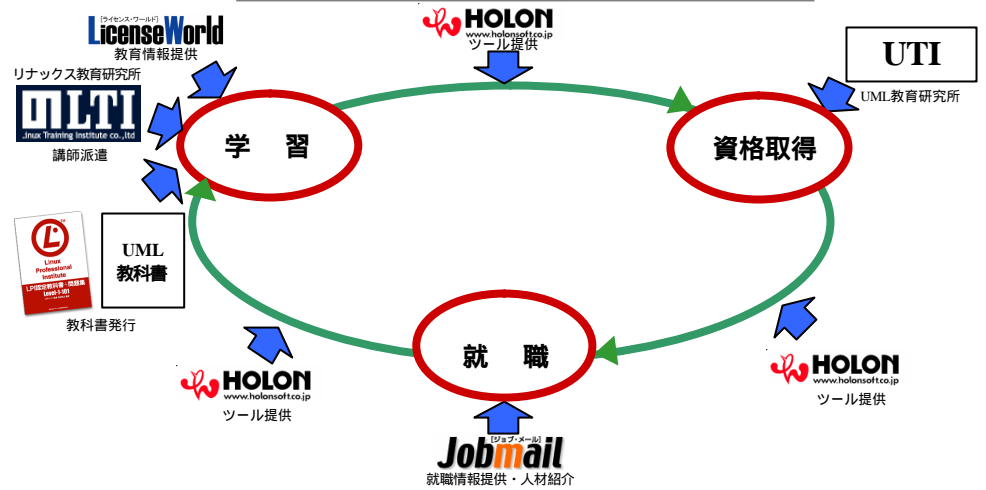
このようなホロンの経営資源と当社の持つITプロフェッショナルとIT初心者のデータベースを活用して、Eラーニングの開発と販売を行っていききたいと考えております。

その他にも、Linux系ソフトを活用して、子会社のリナックス教育研究所とのシナジーを活かした事業展開を検討しております。Linux講師派遣事業と組み合わせたパッケージの提供や教育、Linux教育コンテンツの開発などを行っていききたいと考えております。

Part2 今後の経営主題  
事業シナジー



キャリアアップ・スキルアップのためのサイクル



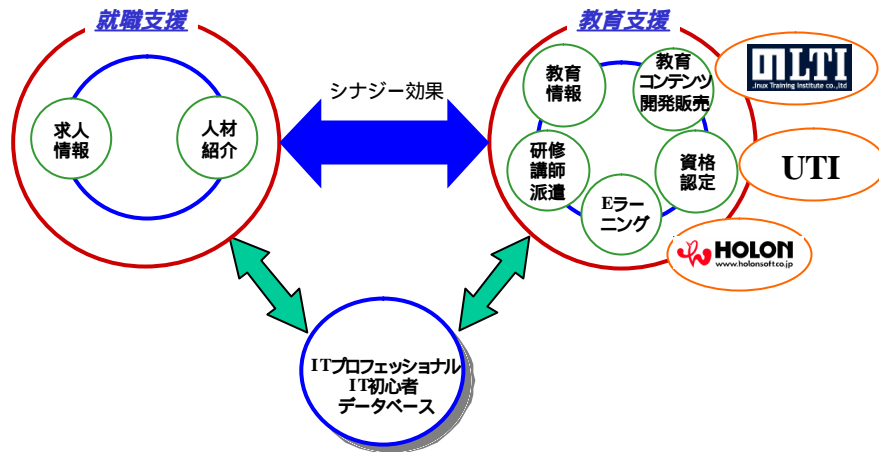
教育支援の拡大により、<学習 資格取得 就職> というサイクル全てに当社が関与

このような教育支援を実現させることで、<学習 資格取得 就職 (キャリアアップ)> のサイクル全ての部分に当社が関与できることとなります。

# 事業モデル



就職支援と教育支援のシナジー効果は2年目以降に高まる



教育支援の拡大により、単一ビジネスモデルから脱却し、  
就職支援とのシナジー効果を高め、収益向上を図る

以上のように、教育支援を拡大していくことで、就職支援とのシナジー効果が高まっていきます。

これにより、ITプロフェッショナルの流動性と育成という両面をサポートできると共に、単一ビジネスモデルから脱却し、収益向上を図っていきたいと考えております。



## Linux とは

Linux とは、自由に再配布することのできる、独立したUnix系オペレーティングシステム (OS ) のことです。

## Linux のメリットは

### 安定性

Windows の OS では、よく OS が動かなくなり、リセットボタンや電源ボタンを押さざるを得ない状況になることがあります。その点、Linux は、アプリケーションが落ちることはありますが、OS を引き連れて落ちることは、まずありません。そのため、24時間365日電源を入れておくようなサーバには最適です。

### 柔軟性

Linux は、「オープンソース」という思想の元に作られております。そのため、「再配布の自由」「ソースコードの公開」「ソフトウェアの改変を認める」などの自由度があります。Windows は改造して販売すれば著作権違法となってしまいますが、Linux はむしろ改良を歓迎しております。

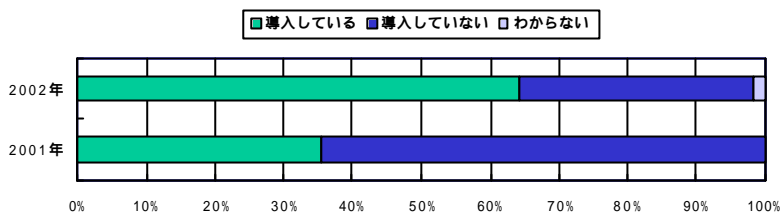
### 経済性

Linux は、Windows と比較して非常に安価に (多くの場合は無料で) 入手できます。Linux 関連の雑誌には、何かしらの Linux ディストリビューションが付属していますし、インターネット経由で入手することも可能です。



## Linuxの普及度は

Linuxは、サーバー用OSとして注目を浴びております。インプレス発行 Linux白書2003によると、日本の企業がLinuxサーバを1台以上導入していると回答した導入率は、昨年の35.5%から大幅に増え、64.3%になったと発表されました。



インプレス発行 Linux白書2003より

## Linux技術者のサポート体制



全世界共通の基準によってリナックス技術者を認定するために、非営利団体のLPIがカナダにて設立されました。

日本においても、LPIの日本支部LPI-Japanが設立され、日本において認定試験LPICを実施しております。

～添付資料～

# U M L



## UMLとは

UMLとは、非営利団体OMGによって策定された分析・モデリングの際に利用する言語です。

1970年代半ばから様々なオブジェクト指向モデリング方法論が乱立し、それに伴ってモデルを表記するための言語（モデリング言語）も様々なものが登場しました。それぞれのモデリング方法論は似通った概念（クラス、関連など）を持っていましたが、方法論によって呼び名が異なっていたり、意味が異なっていたり、表記方法（図）が異なっていました。そこで、各要素の意味（セマンティクス）と表記する方法（構文）を統一し、異なるモデリング方法論であっても知識を共有できるようにしたのがUMLです。



## UMLのメリットは

UMLは、建築、土木や機械、電気、プラントなどにおける設計表記法と同じように、設計情報を正確に記述するのに不可欠であるばかりでなく UMLをサポートしたツールを使用することにより、設計（モデル）から最小限の手間で実装環境に対応したコードを自動生成することを可能にします。UMLは次のようなメリットがあります。

- ・正確な仕様書により、設計と実装のミスマッチが避けられる
- ・UMLで記述されたソフトウェアは、統合、資産評価に必要な客観性を持つ
- ・UMLで記述されたコンポーネントは部品として再利用がしやすくなる。

開発の生産性が高まり、運用コストが抑制される

従って、UMLに関する知識は、ビジネスの要求を分析し、設計仕様を作成する、アーキテクトや設計者はもちろん、実装に携わる開発者、プロジェクト管理者、発注者など、様々な立場の専門家によって共有されなければ、その真価を発揮することができません。これまで、IT技術者は、ベンダー固有の実装技術に阻まれて、十分なコミュニケーションをとることができませんでした。世界共通のビジュアル言語であるUMLを使えば、壁を意識する必要はなくなります。

～添付資料～

# U M L



## UMLの普及度は

UMLはOMGにおいて標準化されて以後、急速に普及して世界標準となりました。設計仕様書における普及度は、欧州で100%、アメリカで90%となっており、我が国では10%未満となっております。日本では、今後の大きな普及が見込まれております。

## 設計仕様書におけるUMLの普及度

欧州 100%  
アメリカ 90%  
日本 10%未満  
我が国においては、今後大きな普及が期待される

## 今後取得したい技術でUML技術者認定は第3位

アットマークアイティ発表「読者調査」によると、民間資格の中で今後取得したい資格は、XMLマスターに次ぎ、オラクルマスターと同位でUML技術者認定であると発表されました。今後も、UML技術者認定の取得意向は高まりそうです。

